

1996年
6月28日

第 8 号

発行所／奈良市山陵町1500 奈良大学社会学部（矢守研究室）
 日本グループ・ダイナミックス学会 TEL/FAX 0742-43-6374
 発行人／杉万俊夫 編集担当／大坊郁夫

大雪に難儀した北海道ですが、今は、いい季節です。そろそろ、ビールが恋しくなってきました。今年の大会は、酒都 西条 さぞや口論飛ばしとなるのでは、委員長？ さて、英文雑誌が刊行されようとしています。国際的な広がり期待して、貢献できればと思います。日本語論文→英文化の途があります。活発な展開が望まれます。また、今年は理事等の選挙の年です。積極的な投票を。改めて、黒川先生はじめ広島大学総合科学部の関係者の方々大会をどうぞよろしくお願いします。（紡）

★★ "Asian Journal of Social Psychology" 創刊！ --- 日本語での投稿も可能 --- ★★

会長 杉万俊夫

いよいよ、今年度（1996年度）から、英文誌Asian Journal of Social Psychology (AJSP) を、アジア社会心理学会との共同で刊行します。年2冊、刊行する予定です。ただし、今年度に関しては、準備期間の都合上、2冊を合併して創刊号とすることになるかもしれません。創刊号の内容は、なるべく多くの国々の関心を引きつけるために、各国1、2名に原稿執筆を依頼し、各国の研究動向を紹介してもらう予定です。来年度からは、投稿論文を主体とした内容になります。

さて、すでにアナウンスしておりましたとおり、AJSPには、各国の母国語による論文を投稿することも可能となります。つまり、まず、日本語で書いた論文を投稿し、審査にパスした後に英訳するという方法が可能となります。また、「実験社会心理学研究」に掲載された論文については、AJSPへの投稿を妨げない方針です。

日本語で書いた論文を、AJSPに投稿する場合のステップは、次のようになります。

- (1) AJSPへの投稿論文であることを明記の上、グルダイ学会事務局（奈良大学）に投稿（執筆規程は「実社心研」の規程に従う）。
- (2) 審査
- (3) 英訳（原則として、審査完了後、6ヶ月以内）
- (4) 英訳の審査

審査基準については、現実に投稿されてくる論文の質・量に依存してきますので、現段階で明確に述べることは困難ですが、少なくとも、「実社心研」よりは厳しくなります。ご承知のように、「実社心研」については、国内研究の醸成を主目的として、「欠点を見つけてrejectするのではなく、小さくともcontributionがあれば、それをクローズアップするようrewriteして掲載する」という審査方針を掲げています。しかし、AJSPは、あくまでも全世界にdistributedされるinternational journalとして、国際的に研究成果を発表していくジャーナルですので、それを考慮した審査基準がとられることになります。

多くの人にとって、英訳は大変な作業ですが、アジア社会心理学会のネットワークによって、英訳をサポートできるようになります。すなわち、英訳は、著者の責任と費用において行われることとなりますが、適切な謝金で英文の校閲をしてくれる人（native speaker の研究者）を紹介する体制をとる予定です。

なお、最初から英語で書いた論文を投稿する場合には、下記に直接投稿して下さい。執筆規定は、APA Publication Manualに準じます。

Dr. Uichol Kim
 Department of Psychology
 Chung-Ang University
 221, Huksuk-dong, Dongjak-ku
 Seoul, 156-756, Korea

AJSPは、グルダイ学会とアジア社会心理学会の共同出版です。グルダイ学会としては、当分、AJSP刊行に対して、従来の英文誌印刷に要していた費用に相当する支出を行っていく予定です。投稿論文の掲載は、来年度からとはいえ、審査、英訳に要する時間を考えますと、今から投稿しても、決して早過ぎるということはありません。会員の方々の積極的な投稿を期待しています。

◎◎ 「飲みにけーしょんの社会心理学」研究計画募集 ◎◎

お酒と人間関係をめぐる研究をやってみようというグループを募集します。

今年度のグループ・ダイナミックス学会が開かれる広島大学総合科学部は、かつて酒都西条と呼ばれた東広島にあります。今でも多くの酒蔵があり、みなさんもよく御存知の名酒が作られています。その酒都西条で学会をする限りは、何かお酒にちなんだ企画を、と考え出されたのが「飲みにけーしょんの社会心理学」です。

お酒をめぐる研究をいろいろと調べてみても、アルコールの弊害を採った研究がないことはない、といった程度。酒と人間関係との関連について、社会心理学、あるいは、グループダイナミックスの立場から検討した研究はきわめて少ないのが現状です。しかし、われわれはうれしいと言っては仲間を酒に誘い、悲しいと言ってはお酒を飲んで愚痴を聞いてもらう、本音を聞きたいと仲間を酒に誘い、よからぬたくらみを成功させようと人を酔わせる、といったように、酒と人間関係とは切っても切れない関係にあることを経験的には知っています。

そう、経験的には知っているのだけれど、それを正面切って研究したことはほとんどない。ならば、せっかく酒都と呼ばれた西条でグルダイ学会をするのだから、これを機会にこのテーマをめぐる研究が発展するような企画を考えよう、ということに相成ったわけです。

というわけで、学会当日、研究計画を発表していただけるグループを募集します。テーマは酒と人間関係をめぐるものであればどんなものでも結構です。アルコール・ハラスメントに泣いたことのある方、どんどん酒席のグループ・ダイナミックスのネガティブな側面をたいてみてください。酒を飲むたびに醜態をさらしているあなた、「酔っていたから」というエクスキューズの効果を帰属理論の観点から探ってみるのもおもしろいかもしれません。お酒を飲ませて異性を口説いたことのあるその人、「愛は誤解から始まるという」言葉の意味を情動の2要因説からアプローチすると興ざめでしょうか。

そんなこんなの研究計画を持ち寄って、学会初日の懇親会の前あたりの時間帯に、発表者も参加者もお酒の一杯でも飲みながら、発表していただくという企画です。「これはおもしろい」という研究には研究着手金として5万円、苦しい財政の中から2グループにさしあげたいと考えています。もちろん、用途は問いません。研究に着手するために有効にお使いください。また、研究計画を発表して下さった方々には、選考結果の如何に関わらず、懇親会ご優待という特典つきです（どの程度の優待になるかはただいま考慮中）。

われこそは、という方、研究代表者として手を挙げてみてください。そしてお仲間を4人ほど募って、お申し込みください。今のところ8グループほど受け付ける予定です（先着順を原則としたいと思います）。当日は、1グループ10分間ほど研究計画の概要をお話しいたします。その内容を、お酒のベテラン（といっても、お酒の研究のベテランとはいえないわけにはいかないのですが）の先生方に審査していただきます。

募集要項をまとめます。

1. 研究テーマ：お酒と人間関係をめぐる社会心理学的、あるいはグループ・ダイナミックス的研究であれば、どんなものでも結構です。
2. 研究グループの単位：5名で1グループをいちおうの目安とお考えください。もちろん、おひとりでも、もっと大人数でもかまいません。
3. 発表グループ数：最大8グループとさせていただきます。
4. 研究計画の審査：将来の発展が期待できそうな研究グループを2グループ選考します。
5. 賞金：選ばれた2グループには、研究着手金として5万円の賞金をさしあげます。賞金の用途は問いません。
6. 受賞グループの義務：平成9年度あるいは10年度のグループダイナミックス学会で、研究成果を発表していただきます。
7. 応募方法と締め切り：大まかなテーマとリーダー名、メンバー名を7月31日までに文書にて大会委員会までお知らせください。

〒739 東広島市鏡山1丁目7番1号 広島大学総合科学部 人間行動研究講座内

日本グループ・ダイナミックス学会第44回大会委員会

黒川 正流 電話：0824-24-6579 E-mail: kurokawa@ipc.hiroshima-u.ac.jp
Nifty: CXJ02022

浦 光博 電話：0824-24-6576 E-mail: urappie@ipc.hiroshima-u.ac.jp
Nifty: PEH01755

坂田 桐子 電話：0824-24-6577 E-mail: h060135@ipc.hiroshima-u.ac.jp

※事務局FAX. 0824-24-0759（宛名を明記してください） ※電話はすべて直通です。

▼役員選挙のスケジュール、選挙管理委員決まる▼

本年度は、役員選挙・名簿作成の年にあたります。今のところ、以下のスケジュールで実施の予定です。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。また、選挙管理委員を、石井滋（大阪国際大学）、

黒川正流（広島大学、委員長）、高田利武（奈良大学）の3氏（敬称略、アイウエオ順）にお願いすることが理事会で承認されました。

5月1日 「調査葉書」を全会員に発送（5月20日〆切）

6月20日 「選挙人台帳（案）」作成の期日

7月上旬 「ニュースレター」刊行。これと同時に台帳（案）を発送し、修正の申告を求める。また、前年度会費未納者に、納付なき場合には選挙権を喪失する旨を通知し、納付を呼びかける。

7月中旬 「選挙人台帳」を確定、投票用紙等の作成

8月1日 「投票用紙」「選挙人台帳」を全会員に発送（8月31日投票〆切）

9月上旬 開票作業。会長、理事、監査選出

9月中旬 会長指名理事2人の決定、常任理事の選出

10月26日 理事会（新旧理事）、第44回大会

11月下旬 名簿完成

▼平成8-9年度「研究奨励賞」選考委員決まる▼

平成8-9年度の「研究奨励賞」選考委員が決まりました。委員は、理事による選挙によって選ばれた以下の10名の方々（敬称略、アイウエオ順）、および、「実験社会心理学研究」の杉万編集委員長の合計11名です。また、選考委員長には、委員の互選の結果、古畑和孝氏が選出されました。

なお、本年度の奨励賞は、「実験社会心理学研究」35巻1号、2号に掲載された論文のうち、条件を満たした論文が選考対象となります。

安藤清志、池田謙一、亀田達也、唐澤穰、北山忍、竹村和久、古畑和孝、村田光二、山本真理子、矢守克也

▼掲載決定論文——印刷入稿時は「フロッピー入稿」に！▼

この度、編集・印刷業務の効率化のため、「実験社会心理学研究」の投稿者の皆様に、フロッピーディスクでの原稿提出をお願いすることになりました。すでに、36巻1号（7月刊行予定）の編集・印刷から実施に移されており、そのためのマニュアル（「フロッピーでの原稿提出のお願い」）も作成いたしました。

ただし、フロッピーをご提出いただくのは、論文が受理され、印刷入稿する時点です。論文投稿時（審査前）は、従来通り、用紙による投稿です。また、上記マニュアルに準拠したフロッピーを提出することができない場合には、従来通りの用紙による入稿も行っています。

▼▼常任理事会・常任編集委員会報告▼▼

日本グループ・ダイナミックス学会常任理事会

日 時：1996年2月18日 15:00～17:00

場 所：奈良大学社会学部棟2階会議室

出席者：（会長）杉万俊夫

（常任理事）黒川正流、鈴木康平、山本真理子、矢守克也

【報告事項】

1. ニュースレターの刊行について

ニュースレター7号を2月初旬に刊行した。英文誌の改革に関する記事、総会報告などを掲載した。

【審議事項】

1. 日本心理学会からのアンケートについて

日本心理学会より「社団法人としての日心に望むこと」のアンケートが寄せられた。重要な案件であるので、今後、常任理事会を中心に、学会としての方針を協議することとした。

2. 「研究奨励賞」について

「研究奨励賞」のあり方（複数回受賞の是非、「三隅賞」との関係など）については、来年度（1996年度）、奨励賞選考委員が改選されるので、新委員会において検討してもらうことにした。選考委員の選挙は来年度早々に実施予定。なお、この選挙の選挙人は理事のみである。

3. 新入会員について

12月～1月の「持ちまわり常任理事会」で承認した以下の4名の入会を確認した（敬称略：入会順）。安藤香織（名古屋大学・大学院）、田名場忍（東北大学・大学院）、柴田利男（北星学園大学文学部）、脇本忍（関西学院大学・大学院）、以上。

4. 機関誌委託販売の契約変更について

機関誌の機関販売は、現在、学会事務センターの事業部に委託している。来年度より、新英文誌の刊行に伴い、委託販売の契約内容を若干変更することが審議の上、承認された。変更後の契約内容の骨子は、以下の通り。「実社心研」は従来通り、年間購読料(2冊)7000円として、264部をセンターが買切り。定価の65%が本学会に納入される。

新規契約となる「AJS P」は、年間購読料(2冊)3500円として(つまり、年間の合計価格10,500円は、現在の3冊分の価格のまま据えおく)、契約件数に応じてセンターが買い取り、販売分の65%が本学会に納入される。

5. 大会論文集(バックナンバー)の委託販売契約について

大会論文集については、従来、明確な販売規定がなかった。しかし、そのバックナンバー販売は重要な財源ともなるので、学会事務センター事業部と販売委託契約を結ぶことが了承された。契約内容の骨子は、以下の通り。①センターが大会準備委員会に必要部数(買切分とストック分)を連絡、②準備委員会は必要部数を増刷、③買切分は、定価の65%が大会準備委員会に、ストック分は販売分の65%が学会事務局に納入される。

6. AJS P (Asian Journal of Social Psychology) 第1号の発送費用について

AJS Pは、現行英文誌とは誌名が変更となり、新規雑誌と見なされるので、その第1号は学術刊行物の認可を受けることができないこと、そのため、郵送費が当初予算より増加することが報告された。審議の結果、来年度刊行予定の会員名簿、あるいは、ニュースレターと同時に送付するなどして極力郵送費を抑えるとともに、第1号刊行後、直ちに学術刊行物の申請を行うこととなった。

「実験社会心理学研究」常任編集委員会

【報告事項】

1. 機関誌の刊行について

「実社心研」35巻2号は2月末、同3号(英文号)は3月末発送予定。2号には、特集「阪神大震災とグループ・ダイナミックス」に伴う特集論文4編を含む8編、3号には、特集「Social representations」に伴う特集論文4編を含む8編が掲載される。なお、これら特集論文の掲載に伴う受理済の一般論文の掲載遅滞はなかった。(その後、印刷作業の遅れのため、両号を3月末同時に発送することとなった。)

2. 審査・編集状況について

1995年2月現在の審査状況は下表の通り。なお、掲載決定(受理)論文について、和文の13編のうち4編は35巻2号に掲載され、残りの9編は36巻1号(1996年6月刊行予定)に掲載予定である。また、英文論文2編は35巻3号に掲載される。和文誌は、投稿総数35本、掲載決定論文13本、審査中論文19本、不掲載決定3本、英文誌は、投稿総数2本、掲載決定論文2本、審査中論文0本、不掲載決定論文0本。

【審議事項】

1. 機関誌の印刷所について

フロッピー入稿(下記2項参照)を視野に入れ、来年度(1996年度)より、和文誌は中西印刷(京都市)で印刷することとなった。また、新英文誌(AJS P)は、印刷コスト、編集の便を勘案し、韓国の印刷所(詳細は未定)で印刷することとなった。

2. 投稿論文のフロッピー入稿について

来年度より、原則として、印刷入稿の段階で、掲載決定論文の著者に対してフロッピーディスクの提出を要請することになった。詳しい規定は、今後、印刷所(上記1項参照)と協議の上、作成することとも承認された。

3. AJS P (Asian Journal of Social Psychology) の審査・編集方針について

投稿要領、審査方針について、以下を原案とし、今後、さらに審議を継続することとなった。

- ①英文論文を投稿する以外に、日本語で書いた論文を投稿し、acceptされた後に、(約1年以内をめどに)英訳することもできる。
- ②ただし、審査基準は、「実社心研」よりも厳しくなる。
- ③「実社心研」に掲載された論文については、AJS Pに投稿することを妨げない。
- ④GD学会の編集委員は全員、AJS Pの編集委員(consulting editors)となる。

日本グループ・ダイナミックス学会常任理事会

日 時: 1996年5月11日 14:00~16:45

場 所: 奈良大学社会学部棟2階会議室

出席者：(会長)杉万俊夫

(常任理事)大坊郁夫、黒川正流、鈴木康平、山口勸、矢守克也

【報告事項】

1. 役員選挙・名簿作成について

別紙(「役員選挙・名簿作成」の記事を参照)のスケジュールで実施することが報告された。なお、選挙管理委員を、黒川正流(広島大学、委員長)、高田利武(奈良大学)、石井滋(大阪国際大学)の三氏に依頼することも了承された。

2. 「研究奨励賞」選考委員の選挙について

現在、選考委員の選挙を実施中であることが報告された。委員が決定しだい、本年度分の選考作業とあわせ、奨励賞の性格についても検討を進めてもらうよう要請することとなった。

3. ニュースレターの刊行とホームページの開設

ニュースレターの次号は、選挙人台帳の公開とあわせて7月上旬に刊行することとなった。また、これと同時期に、学会のホームページを開設し、会員の便宜を図ることとなった。学会に関する種々の情報のほか、最新号のアブストラクトなどを掲載する予定。

4. 電子情報通信学会との研究会の共催について

大坊常任理事より、電気情報通信学会ヒューマン・コミュニケーション・グループのニューズレターにグルダイ学会の紹介記事が掲載されたこと、関連分野でもあり、今後、諸研究会を共催していきたいとの報告があり、了承された。

5. 第44回大会について

黒川常任理事(大会委員長)より、準備状況について説明があった。アジア社会心理学会との提携に向けたシンポジウム、および、「飲みにけーしょんの社会心理学」と題するシンポジウムを準備中であり、その他にも自主企画を募集中との報告があった。

【審議事項】

1. 新入会員について

2月～3月の「持ちまわり常任理事会」で承認した6名の入会を確認するとともに、新たに申し込みのあった8名の入会を承認した(敬称略:入会順)。廣末宜之(有)リバーズ)、三浦麻子(大阪大学人間科学部)、山下京(大阪大学人間科学部)、牧野幸志(広島大学大学院・教育学研究科)、李東俊(第一経済研究所)、片岡美菜子(広島大学大学院・教育学研究科)、ロイヤス・ティモシー(久留米大学大学院・比較文化研究科)、久保田健市(筑波大学大学院・心理学研究科)、矢野博之(郵政省通信総合研究所)、金数大之(関西大学大学院・文学研究科)、福野光輝(東北大学大学院・文学研究科)、小山浩史(芝浦工業大学大学院・工学研究科)、木村泰之(立教大学大学院・社会学研究科)、松本寿弥(京都大学大学院・人間環境学研究科)

2. 諸学会連絡会議について

同会議あるいは日本心理学会が、日本の心理学の対外的、国内的窓口の機能を果たすこと、および、会員管理等の統合化を図ることの是非について、同会議において議論が進められている。本学会としては、当面、現行通り、諸学会連絡会議は各学会の連絡会としての機能のみを担い、日心も参加学会の一つとして加わるのが適当との考えを、同会議担当の山本常任理事より伝達してもらうこととなった。

「実験社会心理学研究」常任編集委員会

【報告事項】

1. 機関誌の刊行について

「実社心研」35巻2号、同3号(英文号)を3月末に同時に発送したことが報告された。36巻1号は、すでに入稿済みであり、6月末に刊行予定である。これには、一般論文7本、資料3本、展望2本、特集論文4本、文献紹介1本ほかを掲載予定である。

2. 審査・編集状況について

1995年5月現在の審査状況は以下の通り。なお、掲載が決定している論文はすべて36巻1号に掲載予定である。投稿総数35本、掲載決定論文12本、審査中論文23本、不掲載決定論文0本。

3. 機関誌印刷所の変更とフロッピー入稿の実施について

36巻1号掲載分から、中西印刷(京都市)での印刷を開始した。同時に、フロッピー入稿をも開始した(「フロッピー入稿」に関する記事を参照)。もっとも、初めての試みであるので、試行しなが

ら問題点を発見し、編集・印刷作業のいっそうの円滑化、スピードアップを図ることを申し合わせた。

【審議事項】

1. A J S P (Asian Journal of Social Psychology)の審査・編集方針について

杉万会長より、投稿要領、審査方針の原案について、ニュースレターに掲載する記事の形で提案があった。審議の結果、これを承認し、論文募集、審査・編集作業を進めていく過程で生じうるであろう課題については、今後、その都度検討していくこととなった。

☆☆ 学会・研究会等の情報掲示板 ☆☆

S★ アジア社会心理学会の新シリーズ近日創刊 ★S

すでにご報告したとおり、昨年6月に香港でアジア社会心理学会の発足大会が開催されました。大会は、多数のアジア諸国からの研究者の出席で大盛会となり、その後のグルダイとの協力関係も順調に発展しております。そして、アジア社会心理学会の活動の最初の果実として、発足大会で発表された論文などからすぐれた論文を選んで、Wileyから単行本を出版することになりました。今後シリーズとして、アジア的視点からの社会心理学研究の成果を、世界的にアピールしてゆくことを考えています。現在、論文の最終審査中ですが、この秋には出版できる予定です。下に、主な執筆者と所属を記しました。杉万会長をはじめ、多くのグルダイ会員の名前に気がつかれると思います。なお、お値段は50ドル程度になる予定ですが、会員の皆様には、特別割引価格で提供することを考えておりますので、どうぞご期待ください。

Title: Progress in Asian Social Psychology, Volume I

Editors: Kwok Leung, Yoshihisa Kashima, Uichol Kim, Susumu Yamaguchi

Contributors (順不同、変更の可能性あり):

Jyoti Verma (Patna University, India); Wolfgang Wagner (University of Linz, Austria); Louise Horstmanshof and Prasuna Reddy (Swinburne University of Technology, Australia); Weining Chang, Wen Loo Chua, and Yvonne Toh (National University of Singapore, Singapore); Michael A. Hogg (University of Queensland, Australia) and Elizabeth A. Hardie (Swinburne University of Technology, Australia); Ying-Yi Hong (Hong Kong University of Science and Technology, Hong Kong); Chi-Yue Chiu and Tracy Man Kung (University of Hong Kong, Hong Kong); Kenichi Ikeda (University of Tokyo, Japan); So-Young Lee and Hoon Koo Lee (Yonsei University, Korea); Hideki Ohira (Tokai Women's College, Japan); Megumi Mizuno and Susumu Yamaguchi (University of Tokyo, Japan); Kibum Kim and Uichol Kim (Chung-Ang University, Korea); Don Munro (University of New Castle, Australia); Malcolm MacLachlan (Trinity College, Ireland); Stuart Carr (University of New Castle, Australia); George Bishop (National University of Singapore, Singapore); and Ng Aik Kwang (National Productivity Board, Singapore); Ikuo Daibo (Hokusei Gakuen University, Japan); Hiroto Murasawa (Pola Research Institute of Beauty and Culture, Japan); and Yong-Jin Chou (Seoul National Teachers' College, Korea); Emiko S. Kashima (Swinburne University of Technology, Australia) and Yoshihisa Kashima (La Trobe University, Australia); Dean Tjosvold (City University of Hong Kong, Hong Kong); Chun Hui and Kenny Law (Hong Kong University of Science and Technology, Hong Kong); Ngai-Ying Wong (Chinese University of Hong Kong, Hong Kong); Kwok Leung, Fanny M. Cheung, Jinxin Zhang (Chinese University of Hong Kong), and Weizheng Song (Academia Sinica, Taiwan); Sang-Chin Choi (Chung-ang University, Korea); Toshio Sugiman (Kyoto

University, Japan); Susumu Yamaguchi, Hiroko Inoue, Yukiko Muramoto, and Setsuko Ozawa (University of Tokyo, Japan)

(東京大学 山口 勲)

▼ "The 7th International Kurt Lewin Conference" ▼

表記の国際会議が、1996年9月5日～8日まで、UCLAで開催されます。会議では、グループ・ダイナミックス、組織心理学等に関するシンポジウム、ワークショップ、セミナーが開催されるほか、レヴィン教授と日本の交流に関するパネル「Lewin-Japan Connection」も展示される予定です。会議主催者は、米国のみならず、日本、ヨーロッパからの参加も呼びかけています。関心をお持ちの方は、是非ご参加下さい。なお、詳しいことは、三隅二不二氏（筑紫女学園大学、集団力学研究所）までお問い合わせ下さい。

▼ 関西地区研究会「関西フォーラム」 ▼

阪神大震災から1年あまりが経過した。筆者の勤務する大阪市立大学でも、全学部の協力のもとに共同研究チームが組織され、これまでいくつかのシンポジウムがもたれてきた。しかし、当初あれほど高かった関心が急速に薄れてきていることは、その参加者の激減ぶりを見てもよくわかる。要するに世の習いとして風化がすでに始まっているということだ。

こうした時期にこそ、社会心理学者が関わってきた震災研究を、初期の感情的コミットメントを少し和らげつつ、あらためて問い直してみようという趣旨のもとに、今回のフォーラムは開催された。

以下、当日の状況を、参加者の一人であるハツ塚一郎氏にレポートしてもらった。

(大阪市立大学・金児暁嗣)

関西地区の地区別研究会（関西フォーラム）が、「社会心理学と阪神大震災」をテーマに、平成8年6月1日、大阪市立大学の金児暁嗣教授のお世話によって大阪市立大学文化交流センターにて開催された。震災体験の風化が問題となる中、関西圏での問題意識の高さを反映して、非会員も含め30名以上が参加した。司会は金児氏が務め、前半は、被災地において継続的に調査を行っている3氏が話題を提供した。大阪教育大学の西川正之氏（「阪神大震災における避難所リーダーの研究」）は、被災各地の避難所リーダーを対象とした大規模な面接調査の結果をもとに、リーダーの類型化、および、それぞれの避難所運営の特徴について報告した。避難所リーダーは、仕事型、自然就任型、自発・選出型の3種に分類されるが、避難所の運営のあり方は、リーダーの性質のみならず、住民、避難所環境、ボランティア等の要因との関係によって規定されるとの報告があった。

関西大学の田中優氏（「阪神大震災における遠隔地仮設住宅の研究」）は、自らもボランティアとして長期的に関与している「八尾志紀仮設住宅」における、住民の心身の健康状況、自治会運営とボランティアの特徴等について報告した。同仮設住宅は、建設前から地域ボランティアが活動し、また自治会も早期に発足したという特徴があり、遠隔地であるというデメリットに対処する事例の一つとして、今後の援助活動にも示唆を与えるものである。

奈良大学の矢守克也氏、および、筆者（「阪神大震災における既成組織のボランティア活動—日本社会における組織編成原理の変容」）は、ボランティア活動を、企業や行政など、伝統的な日本型集団との相互関係の中に位置づけ分類する、5種類の理論枠組みを提起した。阪神大震災におけるボランティア活動の興隆は、高度経済成長以降の日本型組織の変容を急激に露呈させた出来事であり、そこから今後の日本社会の長期的動向が展望される。

後半は、3件の話題提供に対して指定討論者の2氏がコメントし、フロアもまじえてのディスカッションが行われた。

摂南大学の木下富雄氏は、社会心理学による現実の社会問題へのアプローチを評価し、現象記述にとどまらない、政策提言にまで踏み込んだ研究が求められること、そのためには「災害」現象を相対化していく必要があることを説いた。

京都大学の田尾氏は、研究者と研究対象との距離が近すぎるのではないかという懸念を表明し、emotionだけに終わらない研究の必要性、行政と住民、ボランティアの関係を冷徹に見据えていく必要性を論じた。

フロアもまじえて、被災者であることと研究者であることとの関係、研究者の取るべき態度などの問題をめぐり、時間を延長して活発な討議が交わされた。開催場所の利便性も手伝ってか、多数の人たちの参加をいただき、フォーラムは盛会のうちに幕を閉じた。

今回のフォーラムにおいて、アクション・リサーチへのあらたな展望が予期されたことは大きな収穫であった。

(奈良大学社会学部 ハツ塚一郎)

▼ 奈良大学レクチャーズ ▼

奈良大学社会学部では、本年も下記の通り、「奈良大学レクチャーズ」を実施します。今年は、シンポジウム形式で2回開催されます。学外者の参加も大歓迎ですので、ご関心の方は是非ご参加下さい。なお、詳しいことは、奈良大学社会学部（遠藤またはハツ塚）までお問い合わせ下さい。

(tel: 0742-44-1251)。

第1回シンポジウム「ジェンダー・スキーマの呪縛」

日時：7月1日(月) 13:00-16:00 場所：奈良大学社会学部

シンポジスト：土肥伊都子(関西学院大学非常勤講師)

石田英子(文京女子大学助教授)

坂田桐子(広島大学専任講師)

司会：遠藤由美(奈良大学助教授)

第2回シンポジウム「家族と病理学」

日時：12月10日(火) 13:00-16:00 場所：奈良大学社会学部

シンポジスト：前田康宏(住友病院、臨床心理士)

東 千冬(紀泉病院、臨床心理士)

Mohamed HAFSI(奈良大学助教授) 司会：Mohamed HAFSI(奈良大学助教授)

● 名古屋社会心理学研究会 ●

日時：1995年12月16日

実験心理学研究35巻1号 合評会

発表者 安藤直樹

沼崎誠論文 受け手が抱く印象に獲得的および主張的セルフ・ハンディキャップが与える効果

発表者 石田靖彦

山岸俊男・山岸みどり・高橋伸幸・林直保子・渡部幹論文 信頼とコミットメント形成

—実験的研究—

出席者32名 責任者：長田雅喜 (名古屋大学教育学部 中山一英・栗林克匡)

★★ 今年の関連学会大会予定など ★★

日本グループ・ダイナミックス学会第44回大会(広島大学総合科学部) 10月26、27日

対人行動学研究会1996年度大会 国民年金健康保養センターひがし広島

(広島大学総合科学部)

10月25日

日本社会心理学会第37回大会(北海道大学文学部) 9月28、29日

日本心理学会第51回大会(立教大学)

9月10-12日

日本応用心理学会第63回大会(中京大学)

9月 6、7日

日本顔学会第1回大会(国立科学博物館分館)

8月31日、9月1日

日本教育心理学会第38回大会(筑波大学)

11月2-4日

北海道心理学会・東北心理学会第8回合同大会(新潟大学) 7月19-20日

▲△ 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション(HC)基礎研究会 ▲△

○ 9月12日(木)、13日(金) 「福祉工学及び一般」

場所：機械振興会館 [申し込み締切日：7月5日]

12日は、情報処理学会H1研究会と共催。

13日は、テレビジョン学会画像情報システム研究委員会、

日本リハビリテーション工学協会コミュニケーションSIG、感覚代行研究会と共催。

2日間で約20件の発表(招待講演を含む)を考えています。周囲の方々にもご案内下さい。なお、招待講演では、視覚、聴覚障害者、肢体不自由者の講演を予定しています。

[申し込み・問い合わせ先] 鎌田一雄(宇都宮大学)

Tel.028-636-1515 Ext.6242

028-689-6242 Fax.028-689-0721 E-mail kamata@twins.infor.utsunomiya-u.ac.jp

○ 平成9年1月23日(木) 「ノンバーバルコミュニケーション及び一般」

場所：機械振興会館 [申し込み締切日：未定]

[申し込み・問い合わせ先] 中村 真(宇都宮大学)

Tel.028-649-5209 Fax.028-635-3171 E-Mail nakamura@js003.cc.utsunomiya-u.ac.jp

○ 平成9年3月6、7日(HCグループ大会)「コミュニケーションの社会性及び一般」

[申し込み・問い合わせ先] 米村俊一 NTT H1研

〒238-03 横須賀市武1-2356

Tel 0468-59-3646 Fax 0468-59-2332 E-mail yone@aether.hil.ntt.jp

1月、3月の研究会については、共催を予定しております。電子情報通信学会の会員でなくとも同等に発表・参加できます(論文集代のみ要 廉価)。どうぞふるって参加を。

◆◆ 関連インターネット・ホームページ ◆◆

いよいよ電子メディアの大普及。先進的でリンク先の多いHPを挙げてみました。

<http://main.ipc.fukushima-u.ac.jp:80/~p222/> 担当者：福島大学の飛田操

<http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/~1567109/>

東京大学の柴内康文

<http://syasin5.hus.osaka-u.ac.jp/index.html>

大阪大学人間科学部人間行動学大講座

<http://163.212.48.182/index.html>

横浜市立大学の川浦康至

★★ インターネットのホームページ開設 ! ★★

--- どうぞ、お立ち寄り下さい

そして、グルダイ学会でも、会長の率先により、このニュースレターの発行と時期を合わせて、グルダイ学会のホームページを開設しました。

アドレスは、<http://www.nacos.com/JGDA/> です。現在の内容は、次のとおりです。

1. 日本グループ・ダイナミックス学会の概要
2. ニュースレター (1996年7月発行)
3. 機関誌「実験社会心理学研究」最新号 (36巻1号) 掲載論文の要約
日本語
英語
4. 本年度の年次大会
5. 機関誌への投稿 (執筆・投稿規定)
6. 住所・所属が変わったとき
7. 入会を希望される方に
8. 機関誌のバックナンバーを購入するとき

●○ いくつかの新刊書 (1996年2月以降) ○●

長田雅喜編 「対人関係の社会心理学」 福村出版

川浦康至・川上善郎・宮田加久子・栗田宣義・向後千春・諸井克英・成田健一 「メディアサイコロジーマディア時代の心理学」 富士通ブックス (富士通経営研修所)

田尾雅夫・吉川肇子・高木浩人 「コンピュータ化の経営管理」 白桃書房

高木修監修 (大坊郁夫・神山進編) 「被服と化粧の社会心理学」 北大路書房

キング,C.A., キルシェンバウム,D.S. (佐藤・前田・佐藤・相川訳) 「子ども援助の社会的スキル」 川島書店

佐々木土師二編 「産業心理学への招待」 有斐閣

城仁士・杉万俊夫・渥美公秀・小花和尚子編 「心理学者がみた阪神大震災ー心のケアとボランティア」 ナカニシヤ出版

山内隆久 「偏見解消の心理ー対人接触による障害者の理解」 ナカニシヤ出版

◆◆ ニュースレターの編集、記事の投稿 ◆◆

連絡先 北星学園大学社会福祉学部大坊研究室 (学部名称変更)

〒004 札幌市厚別区大谷地西2-3-1

電話011-891-2731 (内線463) FAX011-894-3690

E-Mail daibo@hokusei.ac.jp / mah02332@niftyserve.or.jp

=====
【編集後記】 * しばらく間隔が空いてしまいました。この号では、気のついた出版書を挙げました。この種の情報、随時お寄せください。また、いよいよ、インターネットのホーム・ページが開設されました。中西印刷の中西秀彦氏 (会員) のお世話になります。これから、内容などさらに充実を図り、活用されるようにと念じております。ホームページなどについての情報も。(坊)
=====